

---

# 足チェックに対する患者の認識度調査 ～セルフケアに向けて～

渡部美帆、坂本弘子、青山雪子、斉藤愛子、金 睦子、宮城正子  
秋田組合総合病院腎臓病センター

## The Survey of Patients' Understanding on Footcheck; in attempt to Prevail Patients' Self-Care

Miho Watanabe, Hiroko Sakamoto, Yukiko Aoyama,  
Mutsuko Kon, Aiko Saitou, Syouko Miyagi  
Kidney Center, Akita Kumiai General Hospital

### I. はじめに

下肢動脈の循環障害である足病変は、軽度の創傷でも悪化すると壊死や下肢切断に至る可能性が高い。さらに、透析患者の場合は、そのリスクを高める。

透析患者の足病変の進行・悪化を防ぐため、ポスター掲示や新規導入時パンフレットで指導を行っている。また、患者個々に対しては、定期的に看護師が観察・指導（以下、足チェック）を行い、症状によっては皮膚科受診を薦めている。

足病変の予防には、患者のセルフケアも重要だが、「病院で足を見ているから自分では見ていない」「面倒だ」などの言葉が聞かれていた。このことから、患者の足チェックに関する認識度を知るため、アンケートを行った。その結果、足チェックのとらえ方と今後の指導の方向性が得られたので報告する。

### II. 研究方法

1. 研究期間：平成24年7月～11月
2. 研究対象：ADLが自立している外来透析患者84名  
平均年齢 60.86歳 ±10.77歳
3. データ収集方法：独自に作成した無記名質問用紙（選択回答式及び自由記述式）を配布し、留め置き法で回収後、単純集計した。
4. 倫理的配慮：個人情報保護法に基づき、調査の協力依頼の文書を添付した。また、知り得た情報は本研究以外に使用しないことを口頭で説明、アンケートの返書をもって同意を得たとみなした。

### Ⅲ. 結果

研究対象84名に配布し、71名より回収。回収率85%、有効回答率は100%であった。

#### 1. 足チェックに関する知識の項目

1) 「透析を行っている人は、足の病気（壊死、潰瘍、知覚異常など）が起こる可能性が高いことを知っている」が77%であった（図1）。

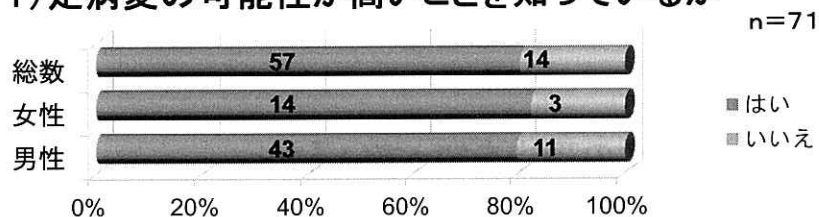
#### 2. ケアに関する項目

1) 「自分で足チェックを行っているか」に「定期的に行っている」のは23%で、「たまに見ている」が59%、「見ていない」が18%であった。自分で足チェックをしていない患者の理由は、「面倒くさい」「興味がない」「まだ大丈夫」「看護師が見ているから」「知らなかった、関係ないと思っていた」「チェックする気はあるが、項目がわからない」であった（図1）。

## 結果

### 1. 知識

#### 1) 足病変の可能性が高いことを知っているか



### 2. ケア

#### 1) 自分で足チェックを行っているか

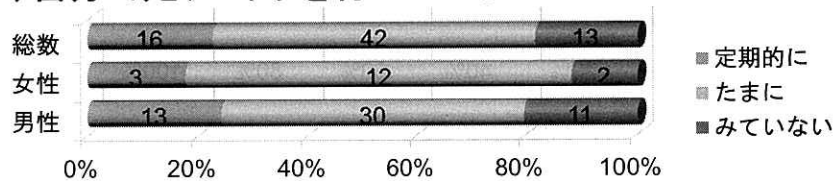


図1

2) 「足チェックの結果、皮膚科受診が必要となり、受診をしたことがある」が72%だった。その中で「定期的に受診している」のは28%で、「悪化した時、受診している」が44%、「看護師に指摘された時のみ行っている」が28%であった。「受診が必要だが行かなかった」人が28%おり、理由は「指摘されたが、必要ないと思った」であった（図2）。

#### 3. 足チェックの必要性に関する項目

1) 「足チェックを行っている理由を知っている」が80%であった。

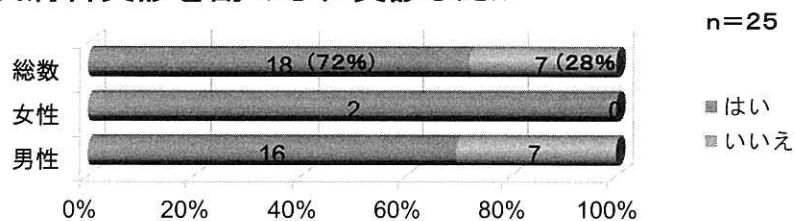
2) 「これからも足チェックの継続を望むか」には、「非常に思う」「思う」が96%であった（図3）。

#### 4. その他の意見・要望

「チェック回数を増やしてほしい。」「ラウンジの掲示物を見ているが、何をどうチェックすればよいかわからない」「足の病気のこと詳しく教えてほしい」などがあった。

## 2. ケア

### 2) 皮膚科受診を勧められ受診したか



### 皮膚科受診を継続しているか

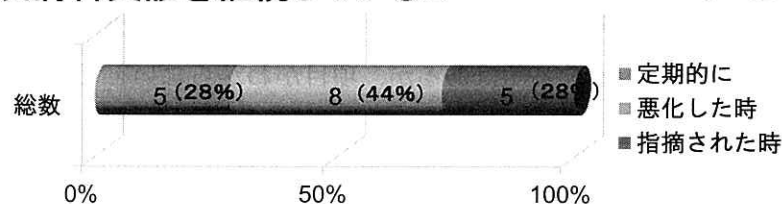
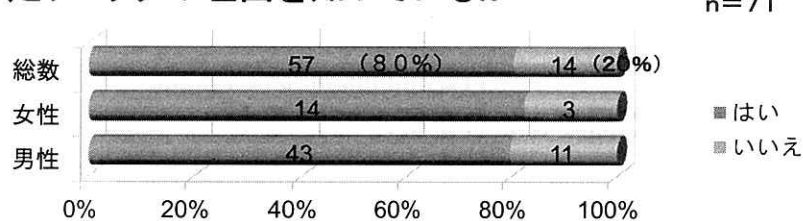


図 2

## 3. 必要性

### 1) 足チェックの理由を知っているか



### 2) 足チェックの継続を望むか

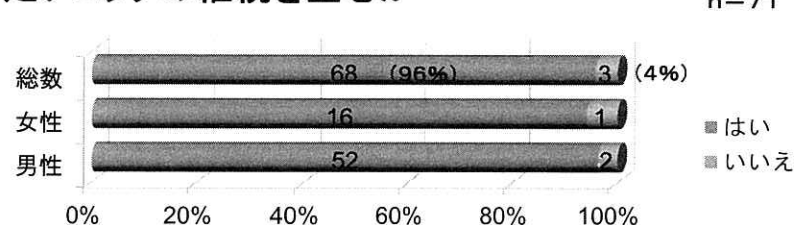


図 3

## IV. 考察

春田<sup>1)</sup>らは「患者自身がフットケアを行うには、足病変のリスクについて知識を持っていること、フットケアについて必要性を理解していること、自分の足や清潔に関心をもっていることが大切である。」と述べている。アンケートの結果で、足チェックの知識が77%、必要性については96%と高かったのは、ポスターやパンフレットにより情報が得られていたためと考える。皮膚科受診を継続している人は28%と低く、患者は下肢切断の可能性が高いことを自身の問題に結びつけず、受診・継続に至らなかったと考える。

---

土田<sup>2)</sup>は「足病変の予防には、早期発見・早期治療が大切であり、それには毎日の足の観察を習慣化する必要がある」と述べている。アンケートの結果から、セルフケアが定期的に行われている患者は23%と低く、「チェックする気はあるが、項目がわからない」という意見が聞かれた。足チェックは、透析中の時間を利用して、看護師が観察し、指導内容を口頭で伝えていた。このことから、看護師と患者が、「共に見る」「共に行く」という指導に至っていなかった。「看護師が見ているから」という意見からも、患者は足病変に対して実感がわからず、依存的になっていたのではないかと考える。

看護師による足チェックの継続を96%が望んでおり、「足の病気のことを詳しく教えてほしい」などの意見から、看護師側の積極的な関与を希望している。今後は、透析前あるいは後に足チェックの時間を設け、ゆっくり患者と向き合うような環境づくりが必要である。さらに、足病変の重症化予防を患者へ繰り返し伝えることによって、患者は足に対して関心を持ち、日常生活でのセルフケアの重要性を認識できるのではないかと考える。

## V. 結論

1. 足チェックの知識と必要性は理解しているが、セルフケアの実施率は低かった。
2. 多くの患者が、看護師による足チェックの介入の継続を望んでいた。

## 引用文献

- 1) 春田さゆり：フットケア・足病変啓発の必要性、糖尿病ケア、春季増刊、p 219、2011
- 2) 土田由紀子、菊永恭子：足病変に対する医療フットケア、看護技術54、p 39、2008

## 参考文献

- 1) 西田寿代：こころと対話するフットケア、ナーシングトゥデイ22、2007
- 2) 柏崎純子：フットケアをはじめよう！ナースだから気づく足病変に注目、月刊ナーシング30、2010
- 3) 西田寿代：いま注目されているフットケアとは、月刊ナーシング26、2006